

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 面積線量計を用いた透視検査における被ばく線量管理・記録の改善への試み

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 山本貴道

[研究責任者] 井沢彩乃 (画像診断部・診療放射線技師)

[研究の概要]

■ 目的・方法 (研究期間も含む)

研究期間：2023年10月5日～2023年11月末

X線透視検査では食道・胃・十二指腸・大腸などを観察する消化管造影をはじめ、IVP (静脈性腎盂造影検査) などの尿路造影検査、ミエログラフィーなどの脊髓腔造影検査、PTCD (経皮経肝胆管ドレナージ) などの胆道造影検査があります。また、徒手整復や内視鏡検査の補助にも使用します。検査の種類や部位により適正線量が異なるため、我が国では診断参考レベル (DRLs2020) が定められています。2022年4月に導入された当院のX線透視装置には、面積線量計が搭載されており、線量管理システム (FINO. X MANAGE) による線量管理が可能となりました。今回、すべての透視検査項目を対象とし、放射線科情報システム (RIS) の検査項目ごとにX線診断透視装置にて検査部位を設定しました。本研究では検査項目ごとの線量管理を行い、線量の適正化を図る研究を行います。

■ 対象となる患者さん

2023年1月から2023年6月までの、面積線量計が設置されているX線診断装置にて透視検査を行った全症例

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：透視検査における検査項目データ及び被ばく線量データ

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

井沢彩乃 画像診断部

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971